令和３年度　市長のタウンミーティング（会場：救急薬品市民交流プラザ）

日　時　８月９日（月・振休）午前９時３０分～１１時
会　場　救急薬品市民交流プラザ　１階ふれあいホール
出席者　夏野市長、磯部副市長、金谷教育長、小塚企画管理部長、一松財務管理部長、桜川市民生活部長、小見福祉保健部長、宮本産業経済部長、島崎都市整備部長、橋本上下水道部長、原教育委員会事務局長、中野市民病院事務局長、木田消防長、夏野会計管理者、吉岡監査委員事務局長、杉本企画管理部次長、菅原未来創造課長（司会）
参加者　６１名

○ 質疑応答

発言者１【沖　男性】
○　射水市はリサイクルの強化に目を向けておられるようだが、リサイクルの強化は大前提としてプラスチックの消費量そのものを減少させることが非常に重要である。2030 年にはプラスチックの生産量は 3 倍になるともいわれ、生態系に及ぼす影響が危惧される。こうしたことからも「プラスチック・スマート先端都市射水」を掲げるのであれば、目標値（リサイクル率）が非常に低いのではないかと思う。

回答【市長】
○　ご指摘いただいたとおり、プラスチックの強化はもちろん、消費量そのものを減らしていくことが重要である。現在、紙ストローやプラスチックの代替品がでてくるなど動きがある。市としては、こういった情報収集を行いながら積極的に利用いただけるような施策を検討していくことが必要であると感じている。
　また、リサイクル率の指標が低いのではということについては、プラスチックが私たちの生活の中にかなり浸透している中で、現状を踏まえた数字を出している。できれば、市民の皆さんにもこういった取組が必要であるという認識をしっかり持ってもらいながら目標値を実績として上げていきたい。

発言者２【大江　男性】
○　団塊世代である私たちの世代がひきこもりの子どもを抱えていることに非常に心を痛めている。国・県・他市等との連携を図り、ひきこもりの問題に

ついて行政として寄り添っていただきたい。ひきこもりになって自立できない、生活できない子どもが親からの支援がなくなった時に、生活保護で生活することが果たして良いのか考えさせられる。ぜひ、少子高齢化の人づくりの中にこのテーマについて寄り添って考えていただければと思う。

回答【市長】

○　ひきこもりの実情、現状については、なかなか把握が難しいところがあるが、市として、一人ひとりに寄り添っていくことが大事であると考えている。市の取組としては、社会福祉協議会で総合的な相談窓口「すてっぷ」を設置している。ひきこもりの場合、いろんな問題や課題が複合的に絡んでいる可能性が非常に高いため、相談窓口から必要な支援につなげていくという取組を行っている。また現在、２６地域にある支え合いネットワークには、地域のご高齢の方を地域で支えていこうという取組を行っていただいている。中には高齢者のほか地域の色んな支援が必要な方々も含め支えていく取組を進めているところもあり、地域の民生委員と連携して、ひきこもりの方の実情を把握しながら必要な支援を考えていく取組も検討いただいている。こうした取組を市全域に広げていきながら、寄り添っていける体制を整えていきたい。

発言者３【青井谷　女性】

○　１点目は、次の総合計画の策定に向けての大きな視点の５項目の中で教育はどこに位置付けられているのか。２点目は、第２次総合計画の項目に関する評価について、形あるものの評価について説明していただいたが、教育のソフト部分の評価があるのであれば教えていただきたい。

回答【市長】

○　策定に向けた主な５つの視点の中で教育というものどこに位置付けられているのかという質問については、主な視点はこれをもって総合計画すべてを網羅しているものではないことをご理解いただきたい。

　次にソフトに当たる部分については、学習サポーターやチームティーチングの取組など、きめ細かな指導が出来るよう取り組んできているところである。また、確かな学力定着の取組としては、一人一台パソコンを導入した。便利なツールであるのでうまく活用していきながら自分で積極的に学ぶことができる教育体制づくりに今後も取り組んでいきたい。

発言者３【青井谷　女性】

○　教育というのは、少子高齢化や環境、さらに地方創生や雇用の問題などいろんな部分と関わる基盤となる部分であると考えている。他県の例で、義務教育学校で特徴的な特色のある教育を行ったことで、他の都道府県からの移住者が非常に増えたという実例がある。こうした主体的な取組が人づくりや移住者の増加など、地域の活性化にもなるのではないかと考える。射水市が次の 10 年間で目を見張るような特別な取組があったらいいのではないか。

○　私は高岡市でひきこもりの支援を行っている。誰一人とり残さないためにも、その立場の方たちが何を考えてどんな支援を求めているのか、小さな声もしっかりと拾っていただける射水市にしてほしい。

○　今日、当局の部長さん方に出席いただいているが、女性が一人というところが今、女性活躍と言われている中で少し残念な気持ちになった。

回答【市長】

○　ICT などをうまく活用しながら、特色のある教育を行っていくことで色々な方から注目をいただけるのは事実である。決して奇抜なことをやろうというのではないが、よりよい環境・体制の中で、特にこういったところを強く求めていくそういった思いに応えられるよう取り組んでいくこと、また、それを総合計画の中に位置づけていくことが大事であると感じた。

○　ひきこもりの方や声を上げにくいような方たちの声にしっかりと耳を傾けていくことが重要である。

○　今､射水市でも優秀な女性の方はたくさんおられる｡部長は一人であるが、課長や係長は増えているのでご理解いただきたい。

発言者４【小島　男性】

○　野手処分場の処理代金について、100 キロで 800 円であるのに対し、他の地区の埋め立て処分場は 100 キロで 350 円である。2.3 倍高い。またクリーンピア射水では、10 キロ 160 円であるのに対し、他の地区は 10 キロ 100 円で、1.6 倍高い。また、他の地区の処分場へは射水市の人は持ち込みできない｡これを作った時にどうして他の地区の値段を参考に設定しなかったのか。射水市にいるだけで高いコストを請求されている。せめて隣の地区の処理代と同じにしてほしい。

回答【市長】

○　射水市では、数年前に施設の使用料を適正なものに見直しした。その時にそれぞれの施設の役割として例えば市が責任を持ってやるべきサービスについては市が全額、民間でも同様のサービスが行われている場合は利用者負担の割合を多く設定する等、そういった考えを施設ごとに分類した。市民の皆さんに負担していただく額は、施設ごとの運営コストを念頭に１回あたり、１人あたりの利用料を出した上で、他市、他地区の料金を勘案しながら設定させていただいた。

　野手処分場の料金についてもその考え方で設計をさせていただいた。少し調査が必要だと思う。また、クリーンピア射水についても運営コストをどれくらいの負担していただくかで設計させていただいた。

　これからの財政については、厳しさを増していく見込みである。だからこそ、こういった利用料についても適正な基準を策定させていただいた上で、皆さんにも負担をお願いするという形を示させていただいている。ご理解いただきたい。

発言者５【太閤山　男性】

○　コミュニティバスの路線が８月に変更になり、すごく使い難くなった。前は各バス停が書いてあったのでどのバスに乗ればどこに行けるか分かったが今は何方面だけ書いてあるので、この路線バスがどこを通っていくのかさっぱり分からない。利用者の立場に立って考えてほしい。

○　料金を統一してもらって、同じ方向へ乗り換え自由にできるようにしてほしい。高齢者の人にとって生活しやすいまちづくりをしてほしい。

○　呉羽のコミュニティバスは 100 円で乗れる。小さな町で 100 円で維持できるのに射水市はどうしてできないのか。

回答【市長】

○　コミュニティバスの見直しをする際は、おっしゃるとおり利用者の目線を第一に考えることはもちろんであるが、全体の経費等も検討しなければならず、例えば利用の少ない路線や利用者が少ないバス停については本数を減らせざるを得なかったことは申し訳なかったと思っている。ただそうは言いながらも利用されてこそのコミュニティバスであるので、ニーズを捉えながらどの路線をどういったダイヤルすればいいのかについて引き続き検討を進めていきたい。

○　バス停の表示については、分かりやすくしようと努めているがまだまだ分

かりにくいとのことであるので、利用される方にとって分かりやすい表示となるよう工夫していきたい。

○　呉羽のバスは、行政主導ではなく地元の商工会が主体となってみんなで支え合い、そこに行政が応援するしくみであったかと思う。射水市は、導入段階で行政主導で入れたため、ご利用いただいた皆さんの料金と市の予算で運用している状態である。今後の検討課題として、例えば広告のようなものを希望される企業から協賛いただき、運行に応援いただくなど検討の必要があると考えている。